

第一節 朝夕のご挨拶

心の安定を求める

— 祈願で自分を高める —

人の心は、喜怒哀楽ともいうように、時々刻々と変化します。その中で、悲しみや怒りなどの感情が生じたとき、気持ちが切り替えられたなら、どれほどよいでしょう。日々心が穏やかであるほど、持って生まれた良さが光ります。その時々を思いをありのまま神に語りながら暮らすところに、物事を大きく受け止め、ゆったりと暮らせます。

朝夕のご挨拶

この世に生かされている感謝の心で、神に真心を寄せるのが、朝夕のご挨拶です。朝は、気持ちよく目覚めた感謝とともに、一日穏やかな心で暮らせるように願います。夕方は、一日過ごす中で自分の心の動きはどうだったかと、感謝と反省の心で見詰め直します。

そのように心が安定していると、さまざまな現実も冷静に受け止め、正しい判断ができます。周りの人とも調和でき、充実した毎日が送れます。

神へのご挨拶は、朝夕正六時を基本として、一日中いつでも事有るごとに行います。

神 示

心正しい「祈願の心」身に付けたとき

人は皆 心の不思議「安心感」を体験できる

今の心の動きが将来を左右する

人は、一人一人、容姿や性格が違うように、物事を感じ方や捉え方も異なります。感謝して食事をする人もいれば、味付けを不満に思いながら食べる人もいます。物事をどう受け止め、どう向き合うかで、日々の暮らしが楽しいものにも、つまらないものにもなっています。

神 示

人は心で生きている

心は自由にならぬもの

ゆえに 心の安泰願って 神に心預けるのである

「前向きに取り組みたくても、なかなか踏み出せない」「いけないと思っても、感情が抑えきれない」心は、自分のものでも、思いどおりになりません。笑っていたかと思えば、泣いたり、怒ったり、感情は移ろいます。そうした一日一日が、一年、十年、二十年とながって、自分の人生です。言い換えれば、日々の心の持ち方が、自分の幸、不幸をつくり上げているのです。神もこのように表されています。

神 示

—— 一日一日 我が心の姿 見詰めて生きる ——

悔いなき人生 手にする極意よ